

武士道

Pride of Japan

BUSHIDO

第10号

今の日本はこのままでいいのだろうか



巻頭言

榎本 孝明
Takaaki Enoki



今の地球文明は今の私達地球人が生きてきた証であると同時に、人間の意識が創ってきた歴史だと思えます。長い地球の歴史の過去にも何度もあったようですが、仮に今の私達の文明が減びてしまつたら、また新たな違う文明で生きる人々が次の地球の歴史を

創っていくことでしよう。

武士道もその一つだと思えますが人間がこの世に誕生して以来、宇宙の摂理に基づいてこの星で人間がより良く生存する為のモラルが世界中から自然発生して、醸成じょうせいされ洗練されてここまで地球が存続してきました。しかし日本人の生きる縁ゆかり(よすが)としての武士道の教えの素晴らしさが、残念ながら現実には新しい世代への継承が難しい時代であるとも言えます。

加速度的に発展してきた今の科学文明は私達の生活全般に大きな影響を与え、武士道ぶしどうの概念自体がコンピューター世代の現代人の中からどんどん失われつつあるのも現実だと思えます。3年ほど前から私が提唱して来ました「時代劇再生運動」は文字や言葉では伝えづらくなった武士道精神を映像を通じて視覚と脳に訴えようと言うものです。

これまでの人類の歴史が人の意識の集積の結果だとすれば、今後の私達の文明が発展するか滅亡するかは私達の意識次第にかかっていると言っても過言ではありません。しかし今の世界の現状はキリスト圏対イスラム圏の対立が複雑に入り組み、他にも民族間、

人種間の争い、そして国同士の利権争いも未だその対立止まずの観があります。それら全てに共通する解決方法があるとすれば、私達一人一人がエゴを棄てて地球人意識に覚醒することだと思えます。同じ星に住まう住人同士が殺し合い奪い合うことの愚かさおろかさに気づいて、本当の平和が訪れるのではないのでしょうか。しかし言うは易し行うは難しでまだまだ個々のエゴからは卒業出来ていないのが現実です。

私達日本人に本来備わってきた武士道精神は、今の地球の現状に明るい光を射す事が出来る可能性があると思つています。そして今私達自身にとっても、武士道精神を通じて人が人として生きる規範きはんを示せると云う意味において、日本人としての誇りを取り戻す大きなチャンスの時代だとも思えます。今後のこの協会が果たせる役割を私達一人一人が自覚すること、世の中への貢献が出来る会へと発展出来ると思つています。

さてここで私が最近実践した意識

の改革方法をお伝えしたいと思
います。それは「不食」です。「断食」

や「絶食」は聞き慣れた言葉かも知れませんが、これは健康増進やダイエットの為の修行に近いイメージがあります。しかし、「不食」は全く違う意味を持ちます。「不」は不要すなわち要らないと言うことで、食さなくても人は生きられると云う発想です。そこで5月半ばから30日間の「不食」を敢行しました。

その間水分、糖分、塩分以外の固形、流動物一切の食物を取らずに過ごしました。そして30日間を無事に終わり、様々な気づきを得ました。最も大きく感じたのは私達の固定観念や思い込みが如何に自分自身を制限して来ているかという事です。人間の最大の常識とも言える、人は食べなければ死ぬ、もしくははやせ細って病気になるという事は誰もが思っていました。ところが30日間を経

た私は身体的、精神的マイナス要因は一つも出て来ませんでした。

まず意外だったのは「不食」を始めたその時から一度も空腹感を感じないばかりか、この期間中、常に満腹感を覚えていたと云うことです。食欲とは腹が減った時の「食べなさい」という脳からの指令です。満腹感の状態ではそれが起きない為に、食欲そのものがありませんでした。目の前の食事を見ると美味しそうとは思いますが食べたいと言う気は起きないのです。体重は少しずつ減り続け20日目を過ぎた頃に9キロ減で、その時点から最後までほぼ一定して変わらなくなりました。おそらく健康体重まで落ちたら後は食べなくても変わらなないと云うことです。この期間中は普段通りドラマの撮影をして、取材に出かけ、武術の稽古をして何ら変わらぬ生活をしていました。

おそらく食べないと元気が出ないと思う人はそうでしょうし、死ぬと思う人はそうなるでしょうし、健康体を維持できると思う人はそうなるでしょう。つまり人間の体は自分の意識に従い反応していくものだと思います。私達の思い込みとも言える様々な常識、

既成概念きせいがいねんの枠を取り払うことで、人間が本来持っているであろう才能に目覚めることが出来るのではないのでしょうか。有言実行した者の強みとして自信を持って人間には無限の可能性があると云えます。

この地球の歴史が人間の意識の集積で創られて来たとしたら、これからの地球をどうしたいのか私達の意識次第で地球の方向が決められるのではないのでしょうか。私達日本人の平和意識を武士道精神を通じて世界に波及させるのも夢ではないと思います。

本名	榎木 孝明
生年月日	1956年1月5日
出身	鹿児島県
身長	180cm
体重	75kg
靴	27.5cm
特技	乗馬、総合武術、絵画

武蔵野美術大学デザイン科に学ぶ。劇団四季に入団、1981年「オンデイズ」で初主演。1983年劇団四季退団。映画・テレビ・舞台で活躍する一方、アジアを中心に旅のスケッチを描き続ける。

武士道憲章 十一章

- 一. 武士道は、天地自然の理法と共に生きる 【自然】
- 一. 武士道は、時空を超越する 【超越】
- 一. 武士道は、心の清明を希求する 【清明】
- 一. 武士道は、志を尊ぶ 【立志】
- 一. 武士道は、公正にして信義を守る 【正義】
- 一. 武士道は、剛直を以て旨とする 【剛勇】
- 一. 武士道は、惻隱の情を心に蔵する 【仁愛】
- 一. 武士道は、礼節を重んじ、恥を知る 【廉恥】
- 一. 武士道は、忠誠心を堅持する 【忠誠】
- 一. 武士道は、親孝行は報恩と心得る 【孝行】
- 一. 武士道は、自己陶冶を精励する 【修養】

武士道憲章は孝行(親孝行)の項目を1項目増加させ、11章となり、順番も変わりました。それは、会員さんとの勉強会の積み重ねの結果、現代は忠誠と孝行を一緒に考えるには無理があることから、孝行を別に設ける必要があることに気付きました。また、順番にも物語があることに気付いたのです。

「武士道は、天地自然の理法と共に生きることを認識し(自然)、時空を超越することで神々を畏怖し先祖の供養をする(超越)、その上で、清明心で生きることを誓い(清明)、志を立て(立志)、公正にして信義を守り(正義)、剛直を以て旨とし(剛勇)、惻隱の情を心に蔵し(仁愛)、礼節を重んじ恥を知り(廉恥)、忠誠心を堅持し(忠誠)、親孝行は報恩と心得(孝行)た上で、自己陶冶に精励する(修養)こと」これで初めて武士道の実践となるから、武士道憲章を11章とし、順番も自然、超越、清明、立志、正義、仁愛、忠誠、剛勇、廉恥、修養とすることに變更いたします。武士道憲章の解説を今後改めて発信してまいります。

武士道憲章解題

初めに

武士道を実践して生きるとは、毎日を楽しく過ごすことができ、例え嫌なことがあっても、それを乗り越え感謝をして幸せを感じる力を備えることです。そして、世の中の役に立つことで自己重要感(自分は社会の役に立つ人間だと思える気持ち)も満たされます。それによって自信と誇りがわき、家族や自分にも感謝をし、自然、先祖、母国に感謝と畏怖の念を抱きながら暮らすことで、虐めも自殺もない平和な生活を送ることが出来るようになります。送るのではないのでしょうか。ここから初めて、戦争のない平和な世界にする第一歩が始まります。虐めがなくなる限り戦争もなくなるわけがありません。虐めをなくすことは、我々全員が誰に対しても同じ態度を取るようになることなのです。非常に難しいことです。だからこそ、武士道憲章をしっかり理解して、自己の精神と魂を高い

所に到達するよう研鑽しようではありませんか。

武士道とは、「戈を止める(武)ことを究める(士)生き方(道)」と文字が語っている通りなのです。

山本常朝『葉隠』にある「武士道とは死ぬことと見つけたり」とは「いかなるものにも執着を残さず、平常心でいつもいられるようにする」ということなのです。死という言葉を使っているから、すぐに命を粗末にするとか、死ぬことを怖がらないと受け取りがちですが、一言でいうと「何事にも執着をしない」ということを語っているのです。

武士道で有名なのは、新渡戸稲造が外国人に説明する為に著作した『武士道』です。それまでは、『武士道』と明確に銘うった本は存在しませんでした。新渡戸武士道は騎士道と比較して、日本の道徳教育を説明しました。だから、新渡戸武士道には親孝行の説明が乏しいのです。目的が外国人に対して、宗教教育がないのに道徳精神が行き渡っている理由を書いているからです。

武士道と騎士道の大きな違いは、女性の扱いです。レディファーストで女性に優しい欧米人、どこへ行くのも夫人同伴、反面日本は、三歩下がりて後ろから付いて行き、裏方に徹するようなイメージがあります。しかし、これは決して女性蔑

視でも軽視でもなければ、差別をしているのではありません。欧米は女性を弱いものと思いつく扱わなければならないと思っっていますが、日本で女性は男性の代わりをする者という扱いをしているからなのです。真田家の逸話にもあるように、戦国時代に城主が戦に出ている間、夫人がその代わりをしました。いつも三歩下がりの夫のすることを見て覚え、夫不在の時はその代行を果たす役割を担っていたわけです。つまり、女性が弱者ではなく、自分の分身とみて、自分と同じことが出来る能力を持ち合わせている者という扱いをしていたと言えます。陰陽の関係そのまま実践しているのです。

武士道は大和心の中に入ります。融和の精神です。見返りを期待せず、損得で判断せず、自分も他人も同じと思いつつ、情で接し、世の為人の為に無私無心で尽くす。それが最終的に、地球が戦争のない平和な星になり、己の能力と魂を最大限に成長させ幸せを手に入れる、最短距離で最良の方法と言えるのです。それを、「武士道」の三文字が「戈を止めることを究(士)める生き方」と言い表しているのです。

(文責・本多 百代)

三者談話

そのまま掲載

奈良毅先生・立山雄二常務理事・本多百代常務理事の三者でたまたまお話しをしたことがあります。仏教では蚊や虫けらであつても生き物を殺してはいけないと言いますが、我々人間は生き物を殺して食べなければ生きることが出来ません。また、強い肉食動物たちは必要なだけの草食動物を殺して食べますが、残りはハイエナや鳥が食べて骨しか残りません。また、満腹になりさえすれば必要以上に生き物を殺すこともなく、独り占めして冷凍冷蔵保存して貯蓄するようなこともありません。しかし人間界では食べ物がなくして飢え死にする人が多くいる中、日本をはじめ先進国では毎日多くの食べ物を捨てています。これらの矛盾をどう考えたらよいのでしょうか。奈良先生は食事をする時に、「その生き物が自分と合体して生きていく」「自分からはお肉を注文して食べることはないけれど、出されたものは何でも残さず食べる」「食べる前に感謝の祈りを捧げる」とおっしゃいました。

この時、この話はすごく良い話だから多くの人に知って頂きたい、と申し出たことからこの録音が可能になりました。そこで、会話が始まってから録音もスイッチを入れられましたので、会話の始まりが途中からになっております。当初は話の内容を聞いた誰もが受け入れやすいようにして、2ページに縮小して掲載する予定でした。しかし、先生がお亡くなりになり、この1〜2年で大きく時代が変わり、人々の考え方も変わってきたように思います。そこで、この録音の内容がとも素晴らしいことから、一人でも多くの人にそのまま聞いて頂いた方が良いのではないかと思ひ、編集せずに複数号に分けて掲載することにします。言葉の細かい所、聞き取れない所は事務局の判断で加筆削除しております。()内は言葉にはしていない部分です。

奈良 (人間も生き物を) 食べるわけですね。

立山 そうですね。それにいろいろな味をつけて美味しい美味しさと食べるわけですね。

奈良 そうです。

立山 例えば野生のライオンが草食動物を食べるわけ

奈良

立山

奈良

です。よね。今の生物学でも分かっているんですが、それをせんかったら、そういう肉食のライオンがやらなかったら共倒れしますよと、その辺のことは理屈じゃ分かるのですがね。ただライオンに襲われた時とかですね、ああいう草食動物達は可哀相やなと何となく思うからですね。

人間的に考えればね。人間が人間を殺すでしょう、それは可哀相なもんですよね。

戦争とかですね。

しかし、そこに悦びが伴わないなら、それはやめるべきですね。まあ人間というのはなかなか難しいもので、自分が神であるということを感じれば、と言うか思い出せば、そういう変なことはしないんですよ。自分も神でない、相手も神でない、と思うから人間が人間を殺すという変なことをしてしまうのですよ。

立山

神であるということをも、もし思い出したならどうなるかと言うと、世の中にある全てのものがね、自分自身だという感覚になるんですよ。自分と他という感覚がなくなってしまうのね。自分で自分の手を見たり足を見たりすることはできるでしょ。見えるからって、目だけが自分だね、手は他人だと思ふ人はいないわけで、それと同じ感覚なんです。世の中の総てが自分自身だと思えば、自分自身で自分を痛めつけるというバカな人はいないのと同じようにね。そういうように感じる事が出来なくて、自分は痛くない、相手が痛くなるだけだからって、やってしまふわけですよ。でも結局は自分自身を傷つけることになっていくんですよ。結果としては。

まあ、ただ(自分も神であるということ)を思い出さずに、世の中を変えようと思つことも、多少役には立ちますけれど、それでは根本的な解決にはならないんですよ。各自が自分は神であつて総てが自分自身だと、いうふうな思い出せば、争いもなくなくなるし、それにただの喜びの為にどうするかということだけを考えることができるか、とみんなが考えられる様になれば戦争はなくなるんですよ。うん、そう深いところまで悟るのはなかなか...

奈良

立山

まあ、いろいろな修行をする人は、摩訶不思議な力を得て、何か素晴らしい境地が得られるのかと思つて、するんですが、でもそれも欲ですよ。でも、その修行も遊びだと思えばいいんですよ。修行することも遊びだと思えばいいのです。

苦しい修行も楽しい遊びだと思えばよかちゆうことなんです。私は学生の時に少林寺拳法をしようとして、少林寺の一つの技とかを習得するということの他にですね、精神的なところで、半ばは他人の幸せを、半ばは我が身の幸せをという教えがあつて、「自分自分と言つたら半分で半分くらいは他人のことを考えること。そうすると世の中はもっと良くなるんじゃないかちゆうこと。ね、金剛禪運動というのを少林寺拳法ではよつたんですけどね。それが四年生で幹部交代してから、色々な霊体験をしてですね、どんどんどん知らん内に色んなのが出てきよりましたね。それで先ほど先生がおっしゃったように(何か素晴らしい境地が得られるのではないかと) 求めたわけですよ。そして次から次へと見せられてですね、毎晩金縛りで目の前に出てきよつて夜寝きらんですよ、半分怖くて。そこでとことん居るのか居らんのかはつきりさせないと俺はダメになるばいと思つてですね。それでも居るなら居れ、居つて構わんじやないかちゆう気持ちになりましたね。最後は心霊術で見せられてですね、霊の存在とかはわかったけど、それからもずっと求め続けましたら、立て続けで遭いましたね、連ちゃん。その後、古神道の本を讀みよつたら、自己確立も己が己を高めるためのものであるから、それはまだ自己愛に属するといふんです。だから、お前たちはさらに他人を思ふと、その要するに利他愛に徹しなさいということなんです。自分を捨てて、自分に対する執着とい



うか捨ててですね、他人の為に一生懸命思いや
つて「我と欲」を捨て空っぽになりなさいというこ
とでした。それを、奈良先生は楽しみなさいとおつ
しやつたですよ。たぶん究極では一緒だと私は
思うんですけどね。

奈良
立山

もう一つ学生時代老子と孔子の本を読みよつて、
そこで孔子の弟子が谷に水を汲みに行つた時に
老子と会われてですね、「あなたの先生はあつち
こつちの国王に説いて回つとるけど、そういうこ
とをする必要はないんだよと、結局自分が悟れば
いいんだよ」と。それで、弟子は愕然とされて孔子
の下に戻つたら、「いま老子に会つただろう」と言
うわけですよ。「老子は自分だけで悟るといふこ
となんだ」と。それで、私はそれなりに納得したん
ですけどね。これは私が学生の時のことですから
全く深みが分かんかっただけなのかもしれま
せんけど。ただ言つとられることは老子も孔子も
ほとんど一緒のはずですよ。

奈良

ええ、まあそれは、他人に教えるのも楽しみです
しね、自分で悟るのも楽しみですし、それは、どち
らでもいいんですよ。何々しなきゃならないとい
うことは無いわけですから。流れの中で進めるこ
とが楽しいと思う人はやればいいですね。一人
でもこつてじつとしていふことが楽しいと思
う人はそうすればいいしね、こうしなければいけ
ないというものは無いわけなんです。

立山

ただ理屈になつてしまいますけど、その楽しみも
憑依霊がついてですね、憑依霊が楽しみよるとい
うこともあると思うんですよ。

奈良
立山

なら、楽しみ
とするところ
の楽しみ
というのは、
本来の本当
の自分の魂
が楽しむと
いうことだ
つたら認め



奈良

ますけど、憑依霊が楽しみよるといふこともある
かと思うですよ。…
その通りですね。それで、その楽しみ方で一番理想
的なのは、自分だけが楽しむ…じゃなくてね、もち
ろん自分も楽しまなければいけない、でも全ての
人が楽しむ楽しみ方というのが一番いいわけです
よ。でも、だいたいこの修行をする人は、まず自分
が楽しむことを考えて修行しますけど。初めは
それでもいいんですよ。ある種の境地に達した時
に、ああこれだいいという喜びが一時わきますけ
どね、でも、永続しないんですよ。

立山
奈良

それから自分と同じか、自分よりもつと素晴らし
いというか楽しい生き方をしている人がいると嫉
妬心が出て来るんですよ。そうすると、結局自分
が今までやってきたことがあまり楽しくなくなつ
てしまふわけですよ。ここが何かの最高だとい
うのを決めてしまふと、早く達成しなきゃいけない、
早く達した方が良くと思つちゃうわけ。だから
不正な手段を使つても早く達したくなつちゃう
んですよ。で、体を痛めつたり誰かの教えを盗ん
だり、それで早くそこに達しようとしちゃうわけ
ね。

立山
奈良

はい
だけども、私は「果て」という、「最高」というものは
無い、と最初から言いますから、だから何も急ぐ必
要はないし、他人と比べる必要もないし、とにかく
早く行きたければどうぞ、私はゆつくり行きます
と(笑)いうふうにして、瞬間、瞬間、自分は永遠の
楽しむ道を歩んでいるということだけを案じて生
きていけばいいわけ。何が起きててもそれは楽
しみの為になるという。

立山
奈良

はい
まあ、世の中には汚い物とか、見て辛い物とか、悲
しい物とかありますよ。だから、その時は感情を
持つていきますから、それを楽しいと思う人はい
ないと思いますよ。だけど、これでどうしたら他人を
楽しくさせるかということを考えて、そのために
一生懸命何かやり出す、それがまた楽しみになる
わけですよ。相手が苦しいという境地から脱して
ね、その人も楽しいと思うならもつと楽しくなる

立山

はずですよ。しかもどこまでやればいいのか
ものではなく、永遠にやり続ける。体はいつか
なくなりませんが、それで終わりと言ふわけじゃ
ないですよ。それからは魂のまま同じことをあの世
でやっていくわけですから。永遠のね、永遠の。
それは分かれますね。他人の楽しみを我楽しみと
為すとかね。

奈良

結局は自分の一部なんですから相手も。だから、
自分の顔だけを綺麗にしてね、手足は汚してい
いっていいわけじゃないでしょう、やはり全部を
綺麗にした方が楽しいわけですから。

本多

その嫉妬心がでちゃつたのを抑えるには、本人が
自分で気づかないとダメなんですか？ 周りか
ら諭されるとか気付かされるとか、何かこうきつ
かけがあると、それが上手く機能して嫉妬しなく
なるとか？ (11号に続く)

奈良 毅【プロフィール】

2014年1月20日没。1932年 秋田市生まれ。東京外国語
大学名誉教授。清泉女子大学教授歴任。
秋田大学去部国語国文学科(学芸士)、東京大学大学院人文
科学研究科言語学(文学修士)、インド共和国カルカッタ大学
人文学研究科比較言語学(哲学博士)
1964年より30年間、東京外国語大学アジア・アフリカ言語
文化研究勤務、現在同大学名誉教授。その間、国内外の大学で
教授・非常勤講師歴任。
1996年より8年間、清泉女子大学勤務(同大学言語文化専
攻主任教授、人文科学研究所所長、地球市民学専攻主任教授、(財)
日印協会顧問、(財)オイスカ顧問、日本パングラデュシ
協会顧問、(財)ラポ国際交流センター評議員、パングラデュシ
1 終身会員、日本語学会維持会会員、日本南アジア学会会員
生前の活動：祈りによる広島平和市民運動代表、世界平和と少
数民族の言語文化及び球環境保全のための運動

立山 雄二【プロフィール】

武士道協会常務理事兼九州地区本部長、五光設計株式会社代表
取締役
経歴：熊本県玉名市出身。県立玉名高校・福岡大学工学部卒業。
高校時代に柔道2段、大学時代に福大少林寺拳法部で活躍。
1983年土木設計コンサルタント会社である五光設計株式
会社を創設、代表取締役に就任、今日に至る。



ロータリークラブで

武士道協会常務理事 本多 百代

2015年5月26日恵比寿ロータリークラブで、武士道について私・本多百代が卓話の講師を担わせて頂きました。講師紹介を下されたのは、協会理事であり俳優で画家の榎木孝明さんです。榎木

さんが不食^{むじく}を始めて約1週間経た頃のこと、参加者がホテルのランチを頂いている間、コーヒーだけで過ごされていました。食べなくなつて4、5日経過しているのに空腹感はないとのこと、

榎やかで平素拝見している榎木さんと全く変わりありませんでした。「食べ物を食べなくても人は生きていけるんです。食べないと死んでしまうと思うことで、食べられなくなっているんですね」と、故奈良毅先生から、70年以上食べ物も水も摂取せずに光合成^{こうごうせい}を栄養にして生きているインドのプララド・ジャンニさんのことをお伺いしていました。また、「核と葉緑素で植物になり、核とミトコンドリアで人間になった」と、脳神経外科医の渋谷直樹先生からお伺いしたこともありました。そこで、私は榎木さんのなさっていることが、人間本来の持つ力を高める役割をすること、という思いがスッと入ってきました。榎木さんは精神的にとても高い位置にいらして、それが出来る人なのだとな得したからです。

ロータリークラブでは、「日本人の生き方」(側隱^{そくいん}の情と廉恥^{れんちしん}心)と言う演題でお話をして参りました。側隱の情は周囲に対する配慮であり思いやりで、廉恥心は己の生き方に対する克己^{こくき}心の現われであり、陰陽相対するものです。その融和こそ人間性の向上であり魂の成長と話してきました。話した詳細までは再現できませんので何故

側隱の情と廉恥心が必要なのかをここで認め^{したため}ましょう。

昔々、遠い中国から船に乗って熊野神社がある和歌山県まで、不老不死の薬を求めて皇帝の使者が訪れたとか。長生きしたい、死にたくない、早く死にたい…色々と言について語られるのを耳にします。ところがこの命、何故か全員に期限付きで、その期限の日が全く分らずに与えられています。チャンスは誰にでも身分やお金に関係なく平等に与えなければならぬというのに、命の期限こそ不平等の極みです。自分で期限を決められず、良いことをしたから長くなる、悪いことをしたから短くなるというものでもないのです。

この矛盾を感じる命は、ある目的を達成するために与えられたものであり、間違はなく偶然ひよつこりと生れてしまったのでは





ない様に思えるのです。いくら、法律が出来てチャンスは平等でも、選抜時には「美しい人」「スタイルの良い人」「運が良い人」「くじ運の良い人」「頭の切れる人」「お金持ちの家に生まれた子」など自分の努力外の要素により、同じ量の努力をすれば誰もが同じ望むものを手に入れられるということはなく、生まれながらの不平等が存在しています。

それは、命は自分のためのものではないからです。その命は時間では測れま

せん。だから、何をしても「命がけ」と言えますが、それを意識しているか否かで大きく違います。惻隱の情で自分の命を誰かのために燃やす人、命をかけて世の為人の為に奉仕している人は活き活きとしています。自分と家族の為だけにお金を使う人よりも、一生懸命働き節約して貯めたお金を他人が育児放棄した血のつながらない子供のために使う様な惻隱の情で生きている人の方が「幸せです」と言う確率が高いと感じます。

また、「死」に関しても、最愛の相方が亡くなるのと自分が死んでしまうのでは、どちらが辛いでしょう。子供が結婚して家を出る時、残された親は嬉しくて安堵する一方、寂しくてやるせない思いもします。でも、結婚をした子供も寂しさはありませんが直ぐに新しい生活に馴染みます。去る方の無念さもありますが、残された方の喪失感ばかり知れません。つまり、これらの感情と上手に付き合い毎日を明るく楽しく暮らせる様に、それぞれに合った環境が与えられ、不平等と見える中で学ばせて頂いているのでしよう。今回の榎木さんの不食は「思いが今を創る」というかなり高尚な学びとと思います。

この不平等な環境は魂の成長度合いによる差であり、魂が完成するまで続くのかもしれない。それなら今世で魂を限りなく完成に近づけることが理想でしょう。

他人の逆境には惻隱の情で接し、自分の逆境には克己心をもって甘えず、乗り越える工夫をし、難解な問題が解けた時を思い描き楽しむのです。そして、惻隱の情で接して頂いたなら感謝をし、恩返しを夢見て励むのです。だからこそ魂の完成に惻隱の情と廉恥心は役に立つのです。つまり「命」は自分のものではなく地球の一部であり、日本だけで1億以上あります。その一つが欠けても周囲が困る実には大切なものだと自覚することが成長の第一歩になるように思うのです。

本多 百代 【プロフィール】

武士道協会常務理事兼事務局長、株式会社八光旧ラインエイジ取締役会長
 経歴：中日新聞名古屋本社中日研修センターで8年間、中日新聞東京本社企画開発室で4年間、組織開発（OD）プロフェッサー・研修講師として勤務し、組織立ち上げ、営業（テレアポ・訪問）教育と人材育成プログラムの開発を担う。2004年人材育成のラインエイジを創設し代表取締役人兼任、2014年ラインエイジを株式会社八光と社名変更して取締役会長に就任。大学特別講師（中央大学、大妻女子大学、大東文化大学e.t.c.）、教育委員会、青年商工会、商工会議所青年部、J.U青年部会、神奈川県議会、農協、ロータリークラブ、中小企業同友会、倫理法人会、異業種交流会、全会津文化祭会津エンジン、中日新聞社、朝日新聞社、民間企業専属研修講師、武士道協会人間力向上セミナー講師、武士道学校講師、さむらい塾子供教室講師、他多数。
 著書：これで完璧人材育成白書、酒寄ユリヤ著書ペンネーム

英霊と武士道

語り継ぐべきもの



首都圏地区本部
白石 茂樹

今年、戦後70年という節目の年です。大東亜戦争の敗戦はある意味、日本の伝統の何もかもに大打撃を与えたと思います。武士道という日本人精神の美徳の華もまたその例外ではありません。

武士道は、武家教育により、武士に求められる道徳的徳目の作法として、日本人の心と魂に刻み込まれた掟のようなものでした。仏教や神道、儒教の影響を受けながらも、その本質は、武士の日常作法、礼法に宿る「魂」であり、武徳の刻まれた身体所作が極める「覚悟」そのものだったので。然るに、占領政策による日本人の絆の解体作業によって、私たちはその貴重な「民族遺産」を手放してしまいました。戦後教育、そして民主主義の道徳、それはそれで国民が自由を謳歌し、公平公正な満足感と平穏な日常を送るために、必

要だったのかもしれませんが。

しかしながら、民主的教育「命の教育」で大事に育まれた日本人は、他人の命どころか、自分の命すら粗末にする始末です。かたや、軍国主義教育に鍛えられた日本人は、お年寄りを助け、子を愛おしみ、親に不幸を詫びて戦場に身を賭して逝きました。

「吾が頭南海の島に瞭さるも
我は微笑む國に貢せば」

ああ、何というご覚悟：義烈空挺隊長、奥山道郎大佐の辞世です。享年26歳、私はこの若者の倍の年を重ねています。恥ずかしながら、このような覚悟はございません。親を大事に？ 妻を子を愛おしんでいるか？ 問われると、胸をはって「はい」とも言えません。そんな私にできる事は、英霊の御霊に感謝の誠を奉げ、また、ひとりでも多くの日本人に靖國を参拝して頂きたく、そのお手伝いをする位です。

今年も、舞台「帰って来た堂々未来への伝言」が上演されました。

大戦末期の陸軍特攻基地、鹿児島知覧での、切なくも神々しい英霊の皆様の最期を描いた舞台です。出演者は皆、靖國に参拝をし、知覧を訪れ、沖繩の海に献花して稽古に臨みます。副題は「未来への伝言」：劇中、「未来の日本人は僕たちのこ



とを忘れないでいてくれるかなあ」という言葉があります。彼らの尊い犠牲に対し、今を生きる日本人は果たして何と応えるのでしょうか？

メディアの多くは、戦争の悲惨さだけを強調し、感傷的な反戦平和を訴えるばかりですが、武士道精神漲る彼らの最期の優しさ、勇ましさ、そして、潔さこそ、私たちが真に語り継ぐべき「戦争」なのではないでしょうか。

白石 茂樹 「プロフィール」

1964年 福岡県生まれ
関西学院大学法学部卒業
横浜市役所、議員秘書を経て、日本防犯防災協会 常務理事
著書「武徳教育のすすめ」(展転社)

率先垂範

「万善簿」ノススメ



九州地区本部
本山 憲一

江戸時代後期、儒学者広瀬淡窓は身分や階級制度がまだまだ厳しい時代に学歴・年齢・身分を問わない私塾「咸宜園（かんぎえん）」を豊後・日田に開きました。1817年～1897年（明治30年）の間に全国から約5000人の門下生が集い学びました。当時日本最大の私塾が九州の山奥にあったことは驚嘆に値することでしょう。咸宜園で学んだ人々が政治・教育・医学・文学など多岐に亘り社会貢献し、後の日本発展への原動力になったと考えられます。そこまで人々を惹きつけた特色は「月旦表」を始め、他に類がない独特の教育システムにあります。一番の魅力は広瀬淡窓の教育家としての生き様に答えを見出せるでしょう。

咸宜園塾主広瀬淡窓の日々実践の後ろ姿は、門下生や周囲の人々に強い影響を与え続けました。入門者が増えるほどに、淡窓は自らを省み、自分自身に更なる努力を課しました。そのことを象徴するのが「万善簿」と名付けた善行実践の記録です。一日一日を振り返って、善いことをしていればその分だけ白丸○を、また悪いことをしていれば、その分だけ黒丸●を記録するというものです。そして月末に、白丸から黒丸の数を

差し引いたものを本当の善行の数として集計し、その累計が「一万」に達する目標を掲げ勤めました。善行の例としての実践項目は「人に勧めて善を為す」「財を捨てて人を利す」「善書を著す」「怒りを忍ぶ」「放生」などです。悪行の例としては、「殺生（蚊を殺すことも）」「食べ過ぎ」「財を惜しむ」「妄想する」などが挙げられます。淡窓は「万善簿」を54歳から付け始め、12年7カ月を経て67歳で「二万善」を達成しました。しかし淡窓はそれでも善しとせず、次の一万善を目指して記述を続け、生涯を終えるまで善行を積み続けました。

淡窓は50歳を過ぎた頃の自分の性格を深く反省し「自分には三つの病がある」と述懐しています。「怠けること」「利己的でケチなこと」「臆病な

こと」、この三つとも根は同じであると気づき、まず「怠けること」から改めようと思い、「一万善」をやり抜く決意を固めたようです。

善行、悪行の判断基準は、淡窓独自の「敬天」思想です。天を畏れ敬うこと、正しいことを行えば自ずと天に報われる。しかし、安易に天に寄りかかることを控え、親族・教育・交際・慈善・放生という五つの日常の場面の中で、平々凡々たる善行を積み重ねること、それを丹念に記録すること、この二つに徹することで「人間力向上の命題」を実践的に解決しようと自ら挑戦し続けたといえるでしょう。

せめて「百善簿」からでも励まねばと、私も思うのですが…。

*率先垂範：率先して実行し、みんなに手本を示すこと

本山 憲一【プロフィール】

1949年5月生まれ・長崎県佐世保市出身
福岡大学経済学部卒
シルバー企画愛（ちか）代表
ふくおか佐世保会（在福佐世保人会）副会長
福岡大学マンドリンクラブOB会副会長
武士道協会常任幹事
民生委員・児童委員
私のモットー「生きるとは、愛すること」

私の武士道



熊本県支部 事務局長

亀井 三二

変化が出てきたようにも思える。

「剣道は剣の理法の修練による

人間形成の道である」

という剣道理念にあるように、剣を通して、人としての道を学ぶ即ち人間力を高める為の武道であり、単なる健康維持の為だけではないと心に留めて稽古に励んでいる。

さて、話を武士道に戻そう。「大和心と武士道」と言われるように神武天皇が大和の國を創られたときの「八紘一宇」の精神が根本にあり、大和の

民より受け継がれた日本独自の倫理・道徳観が今なお、日本人一人ひとりのDNAに深く刻み込まれている。それがはつきりと示されたのが、東日本大震災時の被災者の方々の沈着冷静で秩序あり、また譲り合いの行動である。それに、海外でのサッカー試合後のサポーターのゴミ拾いという行動。これらの所作を見た世界の人々からの賞賛の声を聞き、心から誇りに思ったり嬉しく思えた。

果たして自分だったら、あの様な行動が取れたのだろうか。不安に駆られたのも事実だし、い

やそうしなければと決意したことも事実である。私は、武士道について詳しくは説明できないが、私なりに剣道を正しく真剣に学び、心身を練磨して旺盛なる気力を養っている。剣道の特性を通じて、「礼節を尊び真実を重んじ、誠を尽くし、常に自己の修養に努め以て国家社会を愛して、広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」という剣道修練の心構えがある。それに加え、「至誠に悖るなかりしか、言行に恥じるなかりしか、気力に欠くるなかりしか、努力に慥みなかりしか、不精に亘るなかりしか」という海軍五省を指針としている。

よって、「人に優しく、自分に厳しく」を、私なりの武士道として、少しでも世の為・人の為になれる様、努力精進して行きたいと決意を新たにしているところである。

亀井 三二 「プロフィール」

昭和22年熊本県阿蘇市生まれ。武士道協会熊本県支部事務局長。
損害保険プランナー・生命保険設計士の資格を持つ生損保代理業。
学校法人君ヶ淵学園 崇城大学理事・崇城大学同窓会顧問。
熊本市剣道連盟理事・財団法人全日本剣道連盟錬士六段。
熊本県剣道連盟五方の形(二天一流)錬士。
平成7年4月佐賀県吉祥寺真言宗得度(法名 明蓮)。

「礼法」 食事のマナー

礼法 着 装 講 師

本 多 由 佳



食事の作法も国によってそれぞれ違います。洋食のマナーは学校でも教えているところがあり、私も中高生の頃に学校で習いました。しかし、ユネスコの文化遺産になっていく和食のマナーを学校で習った記憶はありません。家庭内で祖母や母から躰けられた以外、習う機会はありませんでした。そこで、今回は私の様な若輩者がと思うと気が引けてしまいますが、僭越ながら毎日の生活の中の食事のマナーについて書いてみることにしました。

日本では礼は飲食に始まり生活全般の礼法の基本になると、小笠原流礼法ではいっています。そして、それは貝原益軒の五常訓の中でも指摘されています。確かにお腹がすいた時に無我夢中で食べたとしたら、それは禽獣の食べ方に類似しているのではないのでしょうか。人と禽獣の違いは礼にあると言っても過言ではありません。

さて、日本人の多くが食事のマナーが出来ていない人と一緒に暮らすことに苦痛を感じると言っています。それは毎日の暮らしの中で少なくとも若い時は一日2回、定年後は3回も一緒に食事をするからでしょう。それでは何をマナー違反だと言っているのか、説明して参りましょう。

① 汁物の戴き方

御御御付け(味噌汁)を戴く時にお箸の扱い方に困っていませんか？ 御御御付けを戴く時、お箸をお椀の中に入れて飲む方がいらつしやいます。これはNGです。お箸の先を薬指と小指で握り手首近くにし、お箸の元を親指の付け根でおさえて、親指、人差し指、中指ともう片方の手でお

椀を持ちます。

② 椀物の戴き方

椀物は戴く前に、その芸術を愛でるのです。お椀の中の食材は芸術です。心の中で、素晴らしいですね、と言ってからお箸をつけましょう。そして汁のある食べ物の方は、食器を持ちます。意外と食器を持つてはいけないと思つてしまい、左手を受け皿代わりになってしまう方がいらつしやいます。これこそNGです。手に汁がたれてしまったら？ それこそ大変です。受け皿を必要とするときは、椀物などの蓋を使つて下さい。椀物の蓋を取つたなら、脇に置きますので、それを使うのです。

③ お箸の扱い方

箸先五分、箸先一寸、という言葉があるように、お箸の先は1.5センチくらいしか濡らしてはなりません。食べ物によつては3センチまでです。それ以上を濡らすのはNGです。その他のお箸の扱い方のNGは、込み箸、移り箸、箸なまり、舐り箸、探り箸、惑い箸、空箸、またもり、受け

吸い、諸おこし、にらみ食い、犬食い、袖越し、膳越し、です。

- ・ 込み箸…お箸で食べ物を口の中にこれでもか！これでもか！と押し込む
- ・ 移り箸…おかずを戴いたらご飯を戴くのですが、おかずからおかずへと移ること
- ・ 箸なまり…お箸を持つてから、何を食べようかと迷うこと
- ・ 舐り箸…食べ物を口に入れた時に箸の先を舐めたり噛んだりすること
- ・ 探り箸…器の奥の方に何があるか探ること
- ・ 感い箸…お箸を食べ物につけたのに、それを戴こうかどうか悩むこと
- ・ 空箸…おかずにお箸をつけたのに頂かずにお箸を手許に引いてくること
- ・ またもり…お茶碗に盛られたご飯をお箸で押し付けてから戴くこと
- ・ 諸おこし…左手に器を持ち、右手にお箸を同時に持つこと
- ・ にらみ食い…ご飯を口に入れて噛みながら、膳の上のおかずを眺めること
- ・ 犬食い…膳の上の食器に口を近づけて戴くこと

・ 袖越し…右側にある食べ物を左手で取ったり、左側にある食べ物を右手で取ること

- ・ 膳越し…膳の向こうにある食べ物を取る時に膳の脇を通らず上を通して戴くこと
- ・ 受け吸い…御代わりしたご飯や御御付けを受け取り、膳に置かずに戴くこと
- ・ その他にも、お箸で食べ物を刺したり、お箸で器を動かすことも、NGです。

④ その他の食べる時の作法

- ・ 食べ物を口に入れたらおしゃべりはNG
- ・ 肘を食卓について戴くことはNG
- ・ 目上の方より先に箸をとることはNG
- ・ お食事が始まってから席を立つことはトイレであってもNG
- ・ お食事中に髪の毛に触れない
- ・ お蕎麦以外は物を戴くときに音をたてるのはNG
- ・ 汁物を飲む時は音をたてないこと
- ・ 噛むときにくちやくちやくと音をたてるのはNG
- ・ 口を結んで噛みません。
- ・ お食事中にお箸を振り回すのはNG
- ・ お箸を持ったままおしゃべりするのとはNG
- ・ お箸はおいてから話しましょう
- ・ 食器、お箸などで音を立てることはNG
- ・ 口元が汚れた時におしぼりで拭くのはNG

ティッシュかハンカチで拭きます。

礼法の代表は小笠原流です。小笠原は武家です。武家の作法が今に伝わっているのです。江戸しぐさも商人道も武士の礼法を真似たのです。学ぶとは、真似ぶことからなつたのです。

作法を守っていると挙措動作が美しくなります。お食事のマナーを守ることは、気持ちよく生活を送る基本と言えます。宮中では、衣擦れの音で全てを察すると祖父から習いました。微々細々たるところまで気配りをするのだと思えました。気配りが「おもてなし」ですから。

本多 由佳 (プロフィール)

着装礼法講師。学習院で基礎教育を受け、京都造形大学で芸術学を学び、イタリアに2年間語学学習を兼ねて遊学。イタリアの教会で3・11被災児童に除染を施すための寄付金を集めるボランティアに弟と参加し、折紙の製作と販売、折り方や着付けを教えたことから、日本の伝統文化が世界で求められていることを実感し、帰国して和の文化の学びを深めている。祖父が皇室掌典長・勅使、曾祖父が侍従だったことから幼い頃より神道行事や礼法を自然と身に着ける環境にあった。

活動案内 (サイト掲載)

役員忘年会を除き、非会員、初めての参加、お一人の参加、老若男女、どなたでも参加可能です。
電話或いはメールにて、各担当者にお申し込みください、当日9時迄受付ます。

首都圏地区本部 (東京)

- ・毎月1回 日曜日 午前9時30分～
勉強会・池袋がんばれ子供村
親睦会・サイゼリア
武士道勉強会を開催し、武士道の歴史、武士道憲章、武士道の実践などを勉強しています。その後、池袋のサイゼリアで昼食会兼親睦会を開いています。
 - ・不定期 歴史的遺産見学勉強会
小伝馬町牢屋敷、十二社熊野神社など (過去実績)
- ※担当者：青山 誠 090-4529-2549
shizai@kawamatagumi.co.jp
参加費：未定 (お問い合わせください)

関西地区本部 (京都)

- ・毎月1回 定例会・勉強会
日曜日10時30分～ 東山堂西陣本店にて
8月は第4土曜日に京都にて合同納涼会、9月13日(日)、10月18日(日)、11月15日(日)、12月は東京で全国役員忘年会があるためお休みする予定です。
毎月人間力向上セミナーを開催し、本多常務理事の講話があります。武士道憲章、楽しく生きる生き方、天地自然の理法など、勉強会の内容は、皆で話し合い翌月の題目を決めています。
 - ・不定期 神社仏閣参拝、歴史建造物見学
日曜日10時30分～
北野天満宮、平野神社などに参拝 (2015年実績) 後、親睦会開催しました。
- ※担当者：廣森 日出夫
090-1905-1152 info@bushido.co.jp
参加費：1,000円

九州地区本部福岡県支部

- ・月1回 定例会・親睦会 土曜日17時～ 場所未定
 - ・月1回 9月より第1土曜日を候補として、公的な施設で今年から福岡も毎月勉強会を開催したいと思っております。武士道実践のためには、深く武士道を研究し学ぶことが必須であると、東京、京都と8年間弱勉強会を続けてきて思います。勉強会の内容は、皆で話し合っ翌月の題名を決める方法が他エリアでも長続きしています。よって企画中です。
 - ・年1回 8月第4土曜日 18:00～21:00
合同納涼会を毎年開催 (2015年のみ京都の予定)
- ※担当者：森 二三夫 090-7379-4110
bushidohukuoka@gmail.com
参加費：未定 (お問い合わせください)

九州地区本部熊本県支部

- 年1回 講演会 他 熊本県護国神社
- 詳しい事はサイトをご覧ください
- ※担当者：亀井 三二
090-5085-6963

(注)全国の全会場で、突然変更になることがありますので、必ず事前にご確認下さい。

編集後記

十号、縦(|)の火と、横(一)の水で、十。火水でかみ(神)。その様な10号でもあることから、宇宙の仕組み、天地自然の理法を鑑みた内容にしました。子供が親に感謝せずに自分達だけで生きていたと思ったなら大きな問題と思う人が多いでしょう。殊程左様に「人間が全てを中心」だと思ふ傲慢さから抜け出し、当たり前のごとに改めて感謝をする謙虚さを身に着けることが武士道の本髄ということ伝える内容にしました。賛否両論あるかもしれませんが、とても大切な事だと思っています。そして、4号～9号まで続いた表紙も今号からリニューアルしてリーフレット(入会案内)と統一しました。その様なことから今年も発刊が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

武士道協会事務局

〒163-1320 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー20階
TEL(03)5325-2660 FAX(03)5325-2618 URL:<http://www.bushido.co.jp/>

特定非営利活動法人
武士道協会

- 武士道第10号
- 平成27年7月発行